

慶應循環器内科 カンファレンス

Keio University Hospital cardiology conference

本連載では、慶應義塾大学病院循環器内科で実際に行われたカンファレンスのなかで面白い症例、興味深い症例を紹介していきます。実際の議論の様子をそのままお伝えしていきます。その臨場感を感じながら、楽しく、かつ勉強になるコーナーにしていきたいと考えています。

第16回

動悸を主訴に来院した Brugada 症候群

introduction



動悸はよく患者が訴える症状の1つで、そのまま経過観察してよいものから心臓突然死を引き起こす重篤な疾患の初期兆候のものまであります。本日はその診断から治療までについて議論できればと思います。

症 例

症例：43 歳・男性

主訴：動悸、前失神発作

現病歴：18 歳ごろより数分間持続する動悸を自覚したが、すぐに消失するため放置。20 歳時、テニスの試合中に動悸を自覚。その直後に血の気が引くような感じを自覚し、立っていらなくなったが、10 分程度の安静にて改善した。その後近医を受診したが、心電図、心エコー図検査で異常を認めなかった。以降 20 年間、月に数回程度の動悸を自覚していた。43 歳の心電図検査ではじめて右脚ブロックを指摘された。また、ゴルフ中に動悸を認め、動悸の回数が日に 5 回程度と増加し、階段昇降時に息切れ・倦怠感も出現したため、当院を受診した。受診時心電図検査で右前胸部誘導にて coved 型の

ST 上昇、ホルター心電図検査で非持続性心室

頻拍を認めたため、精査加療目的に入院した。

既往歴：小児喘息、マイコプラズマ肺炎、百日咳

生活歴：〔飲酒歴〕機会飲酒 〔喫煙歴〕なし

家族歴：母・伯父が心房細動、兄が拡張型心筋症 /20 歳で突然死

内服薬：なし

監 修



福田恵一（ふくだ けいいち）

慶應義塾大学医学部 循環器内科 教授

1983 年 慶應義塾大学医学部 卒業。1990 年 慶應義塾大学医学部 助手、1991 年 国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部 留学、1992 年 ハーバード大学ベイスラエル病院 留学、1995 年 慶應義塾大学医学部 助手、1999 年 同 講師、2005 年 同 再生医学 教授を経て、2010 年より現職。

司 会



谷本耕司郎（たにもと こうじろう）

慶應義塾大学医学部 循環器内科 助教

1999 年 香川医科大学 卒業。同年 香川医科大学 第二内科 大学院生、2001 年 慶應義塾大学医学部 研究生、2004 年 慶應義塾大学医学部 専修医、2006 年 慶應義塾大学医学部 特別研究助教 2009 年 スタンフォード大学 留学を経て、2011 年より現職。

参 加 者



〔受
持医〕



〔修
修医〕



〔専
門医〕



〔研
修医〕



〔学
生〕

図 1 来院時 12 誘導心電図：調律は洞調律、心拍数 63 回 / 分。正常電気軸で、移行帯も正常です。右脚ブロックを認め、V₁ 誘導で coved 型（↓）、V₂ 誘導で saddle-back 型（↓）の ST 上昇を認めます。QT/QTc 間隔は 430/438 msec でした。



はじめに～症例提示



：症例は 43 歳の男性です。主訴は動悸と前失神発作の反復です。現病歴は、18 歳ごろより数分間持続する動悸を自覚しましたが、すぐに消失するため経過をみていました。20 歳のとき、テニスの試合中に動悸を自覚。その直後に血の気が引くような感じを自覚し、立っていられなくなりました。発作自体は安静にて 10 分程度で改善を認めました。その後近医へ受診しましたが、心電図検査での異常を認めず、心エコー図検査で軽度の僧帽弁逸脱症を指摘されました。以降 20 年間、月に数回程度の動悸を自覚していましたが、失神発作なく経過していました。また、健康診断を受けていましたが、心電図検査での異常は認めませんでした。

43 歳のとき、X 年 6 月の検診で初めて心電図検査にて右脚ブロックを指摘されました。同月 25 日にゴルフをしていた際に 20 歳時と同

様の動悸を自覚しました。この際は労作のたびに発作を繰り返すような状況でした。10 月 2 日にもゴルフの際に同様の発作を自覚しています。また、同時期より動悸を自覚する回数も日に 5 回程度と増加し、階段昇降時に息切れ・倦怠感も出現したため、当院 総合内科を受診しました。来院時の心電図（図 1）で右前胸部誘導にて coved 型の ST 上昇、ホルター心電図（図 2）で非持続性心室頻拍を認めたため、当科紹介になりました。前述の心電図所見と前失神歴より、精査加療目的で入院となりました。



木村：18 歳ごろの数分持続する動悸は労作時でしょうか、それとも安静時でしょうか？



：18 歳のときは安静時の動悸です。



木村：テニスの試合中というのはまさにプレイ中なのか、それともプレイとプレイの合間の休んでいるときなのか、詳しいことはわかりますか？



：まさにプレイをしているときです。



：動悸の速さ、規則性はどうですか？



：本人に速さを伺っても、はっきりしたことはよくわからず、ポコポコする感じがしたとのことです。どちらかという胸部違和感を感じたようです。テニスのときの動悸は結滞で、1 回どくつとした後にちょっと血の気が引くような感じが続くようです。それ以外にも、数分間持続する速い動悸もあったようです。



：X 年 6 月に右脚ブロックを指摘されましたが、医師との面談はありましたか？



：医師との面談はありませんでした。しかし、発作の頻度が多くなってきたことから、自主的に当院を受診されました。



：ここまでの段階で、病歴からどのような疾患を考え、どのような検査をしていけばいいですか？学生さん、どうですか？

